

まごころだより

2023年 3月号

“お茶会”

お茶会に久しぶりに近所の方が来てくれました。この3年間はあらゆる催しが中止されて、息苦しい期間でしたが、最近は少し治まりが見えてきてお誘いしました。東北出身の方で半年前にこの地に来られたということです。右も左も分からない土地勘が無く、心細い思いをしていたところ、思わぬ誘いをもらって嬉しくなり、それもお茶会ということでおしゃべりなんかでもできると思い来られたそうです。ところが、お喋りどころかきちっとしたお茶会で驚かれたようです。でも近所の人に声をかけてもらって、ずいぶん話が盛り上がったと喜んでおられました。



“ミニコンサート”

ボランティア活動をしている若者です。高齢者施設でも喜んでさせてもらいたいと、一生懸命に懐メロを練習されてきたということです。ボーカル担当の方も透き通った声で、聴いていても気持ちが良いと聞かれました。高齢者の人達も楽しそうで又コンサートを開いて欲しいと喜んでおられました。



“思い出話”

孫くらいの職員に嬉しそうに話をしています。最初はお決まりの挨拶程度しかしなかったのですが、思い出のある事を尋ねるとまるで関を切った様に昔の事を話し始めました。きっと誰かに話をしたかったのではないのでしょうか。帰られるころには楽しかった、次も楽しみにしていると言って帰られました。



“合唱”

カラオケでなく、みんなが知っている童謡や歌謡曲だと一緒に歌う事ができます。曲が終わった後でも、その歌の思い出を話されたり笑ったりしてとても盛り上がります。普段あまりお喋りをされない方もこの時ばかりは一緒になって楽しそうにしておられました。



“桜の花見”

ようやく春が感じられる季節になりました。やっぱり春と言えば桜です。ぽかぽかと暖かい日差しの中で、青空に薄紅色の桜は心を和ませる味のある木花です。高齢者もこの時ばかりは気持ちが穏やかになり、心が洗われるようで良い表情をされていました。

